

## 大豆のうね間かん水を行いましょう！

7月末から降雨が少なく高温の日が続いており、今後も高温・少雨の傾向が続くと予想されています。

大豆は開花期～登熟期に多くの水を必要とし、水は子実肥大期まで必要です。水不足になると落花や落莢による減収につながります。

### 【うね間かん水のポイント】

- 水不足により、葉が裏返り白く見える、または、7日以上雨が降っていない場合は「うね間かん水」を行いましょう。
- 水位の目安は、中耕培土栽培ではうね間、密播栽培では明渠の肩を越すぐらいまでを基本とします。
- 生育が遅れている場合は、明渠に通水し生育を促進します。雑草の繁茂が懸念されるため、水位は明渠の肩までとします。



うね間かん水の様子



明渠通水の様子

- 長時間かん水すると大豆に悪影響がありますので、ほ場全体に水が行き渡ったら、直ちに水尻の板をはずして、速やかに排水してください。
- 送水制限などで十分な用水の確保が難しい場合は、ほ場を分け、数日かけて徐々に入水してください。

**農作業中はこまめな塩分・水分補給や休憩など、熱中症対策を行いましょう！**